

# 育てたい資質・能力から「心の教育」に迫る

上越・古城小学校

## 1 はじめに

新学習指導要領では、これからの時代に必要な資質・能力の育成が示されている。当校では昨年度末から教育目標やグランドデザインを資質・能力の育成という観点から見直してきた。

育てたい 資質・能力	みずから<自主性> <学びに向かう力・ 人間性等の涵養>	なかまと<協働性> <思考力・判断力・ 表現力等の育成>	とことん<勤勉性> <知識及び技能の 習得>
目指す子ども 像	自ら考え、進んで 行動する子	仲間と協力し、と もに高め合う子	自分の果たすべき ことに、とことん 取り組む子
目指す成果 (知・徳・体) ※「徳」のみ 表示	①物を大切にしたり、 進んでみんなの ために行動したりす ることができる。 ②友達や先生、地 域の人に自分から 挨拶をすることができる。	③一人一人の違い を認め、思いやり をもって人と関わ ることができる。 ④友達と協力して 活動し、学校が楽 しいと感じる。	⑤学級や学校をよ りよくするために 自分の役割を果た すことができる。 ⑥「ふるしろのス タンド」(約束 事)を守って生活 することができる。

## 2 3つの柱と3つの育てたい資質・能力の設定

協議を重ねた結果、今年度から教育目標を「みずから なかまと とことん 学ぶ子」に変更した。この「みずから」「なかまと」「とことん」を3つの柱とし、この柱ごとに、育てたい資質・能力と目指す子ども像を上の方のように設定した。具体的に目指す成果を「知・徳・体」ごとに決め、グランドデザインに明示した。(表には「徳」の部分のみ明示)

## 3 重視する教育活動(徳)

目指す成果に迫るために何を重視すべきかを職員と協議した。その結果、表中の目指す成果に対して重視する教育活動を次のように決めた。(表中の目指す成果と連動)

- ① 議論する「道徳」の授業や体験活動の工夫
- ② 時や場に応じた挨拶や返事の指導の徹底
- ③ 「人権学習、部落問題学習」の授業の工夫と、いじめ防止基本方針に基づく対応
- ④ 一人一人が活かされた学級づくりや縦割り班活動・集会・クラブ活動・学校行事の工夫
- ⑤ 係活動やリーダー活動の取り組ませ方の工夫
- ⑥ 「ふるしろのスタンダード」(みんなが気持ちよく生活するための約束事)に対する指導の工夫

「知」と「体」についても同様に、目指す成果に対して重視する教育活動を決めて取り組んでいる。それぞれの項目について数値目標を決めて前期と後期で評価する。

## 4 おわりに

表に示した「目指す成果」(徳)の六項目が当校の心の教育で具体的に「できるようになってほしい姿」である。この姿に迫るための手だてを評価・改善し、今後も心の教育の充実に努めていく。